



内戦での虐殺を乗り越え
誰一人取り残さない教室を作りたい
認定NPO法人 SALASUSU

皆さんも子どものとき、こんなことはありませんでしたか？

『今日の授業、全くついていけなかったなあ』

『そもそも僕が学校に来ることを
楽しみにしている人っているのかな』

それがさらにこんな状況だったらどう感じるでしょうか？

親が学校を出ていないので
勉強を教えてもくれないし、
応援もしてくれない

家庭の借金が多く親の仲も悪い。
家で安心できるときがないし、
将来が見えない



せめて学校の教室が第二の家のように安心できる場であれば

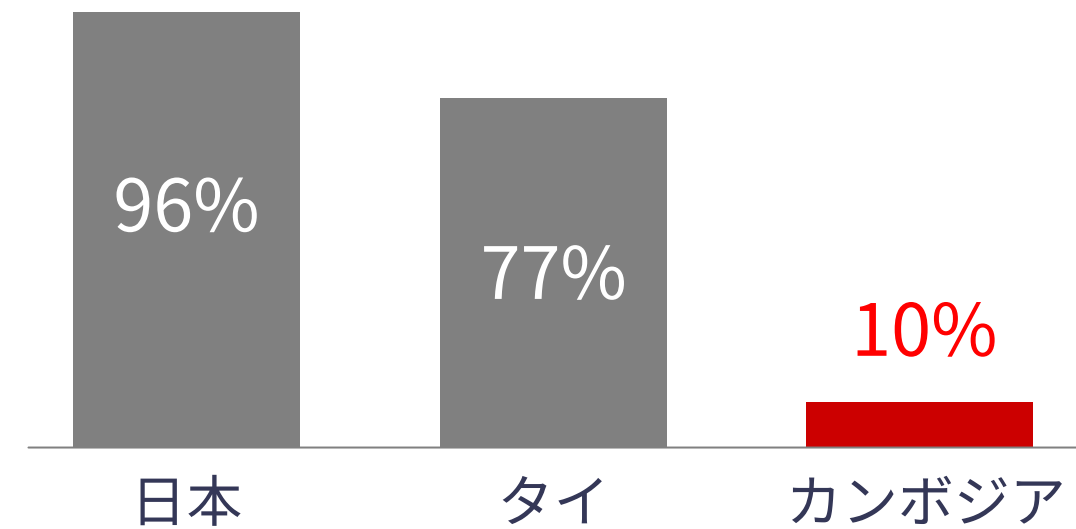
どんな子どもであっても、学校に通い、
学ぶ事を応援してくれる教室

カンボジアの教育の課題は「学びの質」、「教師の質」が焦点

学びの質はアジアで最低水準

学習の貧困

10歳時点での適切な読み書きができる子ども (2019, 世銀)



現場の授業は20年変わらない

75%の教師が虐殺されたカンボジア





変化の鍵は「教師」

私たちの仮説

**日本発の授業研究を通じた学校作りで、
専門家としての教師の共同体を作る**

変化を起こす2つの事業

事業1 自社実験校



事業2 公教育支援事業



自社実験校：カンボジア人により「誰一人取り残さない教室」は作れるか？

- 2008年に創設し、250人の雇用と教育を行ってきた
- 補習校として、近隣の公立学校の小学校4～6年生 約60人の生徒が午後のみ通う（+作り手として働いていた小学校中退の母親達が共に学ぶ）
- 国語・算数・美術・倫理の科目の難しい問題に45分間諦めずに挑み続ける生徒達の姿



**検証
OK!**



公教育支援：成果に加え、最も大事な学校との信頼関係を構築することに成功

学校改革に関わる学校数

4 校

探究学習導入に関わる学校

4 校

青木の講演に参加した教師

500 名+

提携開始した近隣公立学校

2 校

育成した教師のべ人数

300 名+

学校改革に関わる職訓校

1 校

裨益生徒数概算

9000 名+

研修後授業を変えた教師

80 %

“SALASUSUとともに、
学校中の教師を巻き込んで、
共に改革をしていきたい”

- 教員養成大学附属中学校校長



“中学校だけでなく大学も、
JICAも巻き込んで
SALASUSUと協力して
教育の質をたかめよう！”

- 教員養成大学 学長



教育の専門家とともに挑みます



日本の文科省の
推薦プロジェクトにも
選ばれました



荻巣 崇世

カンボジアの教師育成が
専門の東京大学准教授

東京大学大学院教育学研究科 総合教育科学専攻
准教授 / 専門はカンボジアの教師研究、レス
ンスタディ



永島 孝嗣

日本の公教育改革
年間100校の専門家

麻布教育研究所副所長
毎年のべ100校以上の小中高に、学校改革の外
部支援者として訪問。その他、福島県須賀川市
教育委員会・三春町教育委員会 学校教育アドバ
イザー、東京学芸大学・立教大学の教育方法学
講座担当など

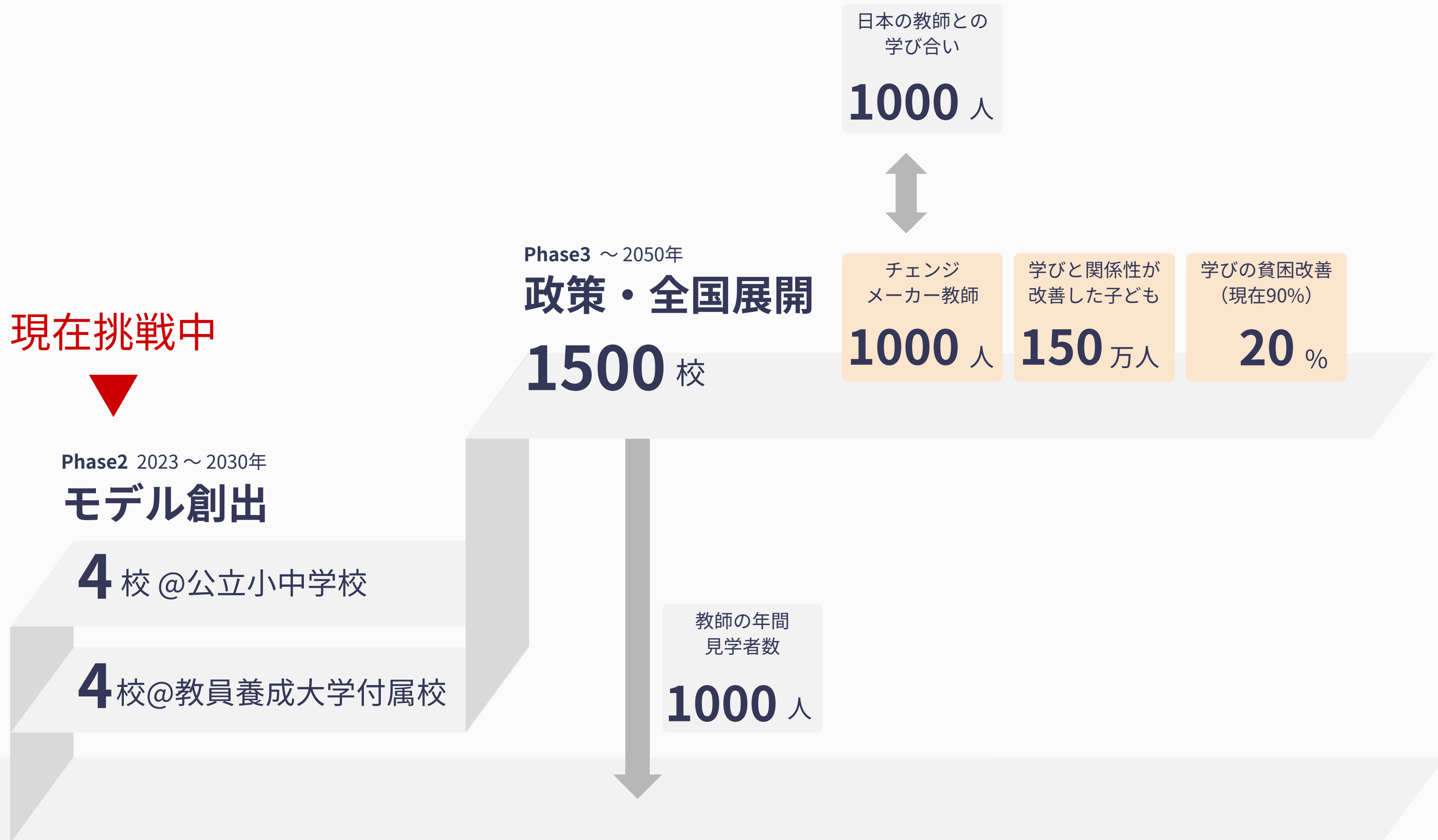


津久井 純

途上国での教師教育
プロジェクト実践家

国際開発センター主任研究員
ベトナムやミャンマー、パレスチナでのレス
ンスタディを通じた教師教育

ロードマップ：カンボジア中に「誰も取り残さない教室」を広げる



日本人6名を含む25名の最高のチームで挑戦できています

青木健太

認定NPO法人SALASUSU理事長

#22年の国際協力NGO経営

#カンボジア在住15年目

認定NPO法人かものはしプロジェクト共同創業者 / 理事長

- カンボジア国際商工会 教育部会 副代表
- 50 International Voices in Cambodia 選出



最後に発表があります

これまでに20000人の日本の中高生が訪れた私たちの実験校



オンラインでカンボジアについて学ぶ熊本西高の生徒たち
—熊本市西区

オンラインで海外研修

熊本西高（熊本市西区）の生徒が11日、カンボジアの農村女性が行った製品の販売を通じて生活支援などを取り組むNPO法人「SALASUSU（サラスー）」の活動をオンライン会議アプリを使って学んだ。同法人は、現地の女性の収入を向上させる目的とした工房を開設。そこで作ったバッグやアクセサリーなどを韓国や日本で販売している。同校では昨年同様、2年生を対象に海外派遣研修を開始。今年もシンガポール

とベトナムで、現地の文化や歴史などを学ぶ予定だ。だが新型コロナウイルスの影響で渡航できなくなり、代わりにオンラインの学習を企画した。工房に勤務する20代の女性スタッフが「朝から夕方まで働いた後、夜に英語などを3時間勉強している」と暮らしを紹介。参加した生徒は人と英語を質疑応答した。工房のラフツアーもあった。普通科2年の佐藤佑紀さんは「現地にいけないのは残念だが、英語で海外のことを話した。言葉が通じてうれしかった」と話した。同校は今後もオンラインでの海外研修を続ける見込みだ。（山口尚久 定）



日本の教師とカンボジアの教師がお互いを支え続けた姿



トヨタ財団 国際助成プログラム
「日本とカンボジアにおけるグローバル社会課題を通じたソフトスキル教育を牽引する教育リーダー育成事業」(2020年)
をきっかけにその後も交流が続く
日本とカンボジアの教師たち

世界50カ国から参加があった国際学会での事例発表




2024年3月に開催された各国の公教育
改革研究者・実践者の方々が50カ国
以上から集まる学会「学びの共同体国
際会議」に参加し、実践報告を実施



公教育改革の旅を、
日本と共に、
アジアと共に歩んでいきます

アジア公教育改革機構（仮）の立ち上げへ

A young boy with dark hair, wearing a red t-shirt, is smiling broadly and looking down at a book or paper in his hands. He is sitting at a desk in a classroom. In the background, other students are seated at desks, some looking towards the camera and others looking away. The lighting is warm and bright, suggesting a sunny day. The overall atmosphere is positive and educational.

**「今日の授業、もうちょっとだったのに！」
「今日学校に来て、よかったな」をアジア中で
実現するSALASUSUの旅を応援してください**